

高知県感染症発生動向調査（週報）

2017年 第38週 （9月18日～9月24日）

★お知らせ

○RS ウイルス感染症に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第37週の6.20から第38週では6.73と横ばいですが、報告数は過去10年で最も多い状態が継続していることから注意が必要です。中央東では減少していますが、幡多、中央西で増加しています。

年齢別では、1歳以下の報告数が全体の62%を占めています。

病原体検出情報では第38週に須崎から搬入された検体で（臨床診断名は不明発疹症）Respiratory syncytial virus Aが1例、第36週に中央東から搬入された検体で（臨床診断名は呼吸器感染症）Respiratory syncytial virus Aが1例検出されています。

この病気は軽い風邪様の症状で発症し、通常1～2週間で軽快しますが、授乳期早期（生後数週間から数ヶ月）にRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。特に、低出生体重児や心臓や肺に基礎疾患がある場合、神経や筋肉の疾患がある場合、免疫不全が存在する場合には重症化のリスクは高まります。一方で、年長児や成人は、感染しても症状が軽いことが多く、気が付かずに感染源となる可能性があるため注意が必要です。また、高齢者においても急性のしばしば重症の下気道炎をおこす原因となるため、特に長期療養施設内での集団発生が問題となる場合があります。

予防接種ワクチンはなく、患者の咳、くしゃみなどによる飛沫感染、感染している人との濃厚接触、ウイルスが付着した物品を触ることによる接触感染により感染するので、風邪と同様にマスクの着用（咳エチケット）と手洗いによる予防が有効です。乳幼児への感染を防ぐため、咳などの症状がある人になるべく接触させないようにし、看護する人も手洗いを十分に行ってください。また、早産児や慢性呼吸器疾患を有するハイリスクな乳幼児には重症化予防のため、パリビズマブ（抗RSウイルスヒト化モノクローナル抗体）の投与があります。（本剤の添付文書では、投与に際しては学会等から提唱されているガイドライン等を参考とし、個々の症例ごとに本剤の適用を考慮することとされており、保険適用となっています。）

●厚生労働省 「RS ウイルス感染症 Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs_qa.html

●国立感染症研究所 「注目すべき感染症 RS ウイルス感染症」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/541-disease-based/alphabet/respiratory-syncytial/idsc/idwr-topic/7509-idwrc-1734.html>

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第37週の3.63から第38週では2.50と減少しています。県全域から報告があり、中央東、安芸で急減、須崎で減少していますが、中央西、幡多で急増しています。

定点医療機関からのホット情報ではノロウイルスが6例、細菌の病原性大腸菌やカンピロバクター属菌を原因とする胃腸炎6例の報告もあります。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、主に冬場に流行しますが1年を通して発生しています。嘔吐、下痢が主症状ですが、その他、発熱、腹痛などの症状があります。特に、乳幼児や高齢者、体力の低下している方は、下痢、嘔吐などで脱水症状を起こすことがありますので、早めに医療機関を受診してください。通常は1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長いときには1ヶ月程度ウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。

予防対策のため、帰宅時や調理前・食事前、トイレの後に石けんでよく手を洗いましょう。また、感染した人の便やおう吐物には、直接触れないようにし、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用法を確認したうえで使用し処理しましょう。（使い捨ての手袋やキッチンペーパーなどを使って処理しましょう。）調理をする場合は、十分加熱（85℃で1分以上）しましょう。

また、細菌による感染性胃腸炎のほとんどの場合、患者との接触（便など）や汚染された水、食品によって経口的に感染します。予防対策としては、食中毒の一般的な予防方法（①つけない（洗う・分ける） ②増やさない（低温保存・早めに食べる） ③やっつける（加熱処理））です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存は避ける、加熱（85℃で1分以上）は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけて下さい。

●厚生労働省 「ノロウイルスに関する Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

●衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

○夏型感染症（手足口病・咽頭結膜熱）に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は地域により増減がまちまちですが、いずれも注意報値・警報値の報告はありません。病原体検出情報では第 38 週に搬入された検体で高知市から Cocksackievirus A16 が 1 例、第 37 週に搬入された検体で高知市と須崎から Cocksackievirus A6 が 2 例検出されています。

これらの夏型感染症は、主にウイルスが含まれた咳やくしゃみを吸いこんだり、手を介して口に触れたりすることで感染します。幼稚園、保育園、学校等の集団生活では手洗い、うがい等の予防対策に加えて、タオル・コップ等の共用を避ける等して、感染予防に努めてください。これらの感染症はほとんどの場合、予後良好です。しかしまれにですが重症化し、重篤な症状を呈することもありますので、早めに医療機関を受診してください。

☆野外活動の際にはマダニに注意！

日本紅斑熱や SFTS（重症熱性血小板減少症候群）は比較的大型（吸血前で 3～4mm）のマダニが媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは野山、草地、畑、河川敷などに広く生息しています。屋外でキャンプ、ハイキングなどのレジャーや農作業をする場合には次のことに注意しましょう。（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（マダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

また、このたび発熱・衰弱等に加え血小板減少等の所見が見られた飼育ネコ及び飼育イヌの血液・ふん便から SFTS ウイルスが検出された事例並びに、体調不良のネコからの咬傷歴があるヒトが SFTS を発症し死亡した事例が確認されました。これらの事例は稀な事例ではありますが、イヌやネコの体液等からヒトが感染することも否定できないので、体調不良の動物に接触した後、発熱等の症状が出た時には医療機関を受診して下さい。その際には、動物との接触歴についても申し出て下さい。

●重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html

●高知県衛生研究所 マダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分類	効力持続時間	注意事項	特徴
ディート	5～10%	防除用医薬部外品	1～2時間	6ヶ月未満児には使用禁止	・独特の匂い ・べたつき感 ・プラスチック・化学繊維・皮革を腐食することもある
	12%	防除用医薬品	約3時間		
	高濃度製剤 30%	防除用医薬品	約6時間		
イカリジン	5%	防除用医薬部外品	～6時間		
	高濃度製剤 15%	防除用医薬品	6～8時間		

※ 国立感染症研究所「マダニ対策、今できること」より抜粋

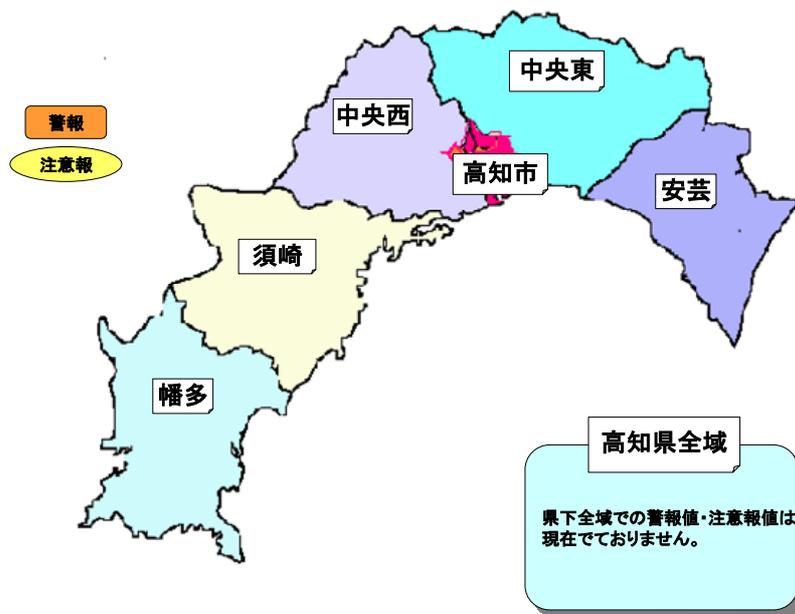
※ 市販の虫よけ剤(忌避剤)は、用法・用量・使用方法等をよく読んで使用してください。

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
RS ウイルス感染症	→	6.73	中央東で減少していますが、幡多、中央西で増加しています。
感染性胃腸炎	↘	2.50	中央東、安芸で急減、県全域、須崎で減少していますが、中央西、幡多で急増しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	0.97	幡多、安芸で急減していますが、中央西、須崎で急増しています。
手足口病	↘	0.67	幡多、須崎で急減、県全域、中央西、高知市、中央東で減少しています。
咽頭結膜熱	→	0.57	幡多、安芸で急減していますが、高知市、中央東、須崎で急増しています。

★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

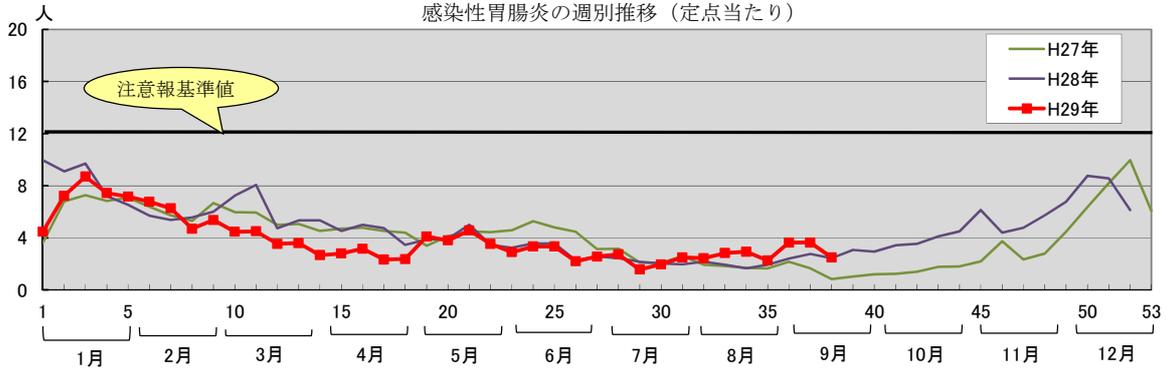
○RS ウイルス感染症 第38週：6.73（注意報値：－ 警報値：－）

定点医療機関からの報告数は定点あたり 6.73（前週：6.20）と横ばいです。中央東 1.29（前週：2.43）で減少していますが、幡多 18.00（前週：14.60）中央西 3.67（前週：2.67）で増加しています。



○感染性胃腸炎 第38週：2.50（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 2.50（前週：3.63）と減少しています。中央東 2.14（前週：5.00）安芸 1.50（前週：6.00）で急減、須崎 2.00（前週：3.00）で減少していますが、中央西 0.67（前週：0.33）幡多 0.60（前週：0.20）で急増しています。



★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	77	80歳代 男	安芸
		1		90歳代 女	
		1		70歳代 男	中央東
		1		70歳代 女	
		1		80歳代 男	須崎
		1		80歳代 女	幡多
3類	細菌性赤痢	1	2	10歳代 女	安芸

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
38	手足口病	38℃,口内炎,	2	男	高知市	Coxsackievirus A16
38	百日咳 疑い	咳嗽,	12	男	高知市	<i>Bordetella pertussis</i>
38	不明発疹症	下痢,咳嗽,発疹,	2	男	須崎	Respiratory syncytial virus A

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
36	感染性胃腸炎、扁桃炎	39℃,下痢,腹痛,	1	女	中央東	Adenovirus 2
36	感染性胃腸炎	嘔吐,嘔気,	1	男	中央東	Coxsackievirus B4
36	呼吸器感染症	40℃,咳嗽,肺炎,	1	男	中央東	Respiratory syncytial virus A
37	手足口病	39℃,発疹,口内炎,	11ヶ月	男	高知市	Coxsackievirus A6
37	手足口病	38℃,発疹,	3ヶ月	男	須崎	Coxsackievirus A6
37	—	40℃,咳嗽,	3ヶ月	男	高知市	Parainfluenza virus 2

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	早明浦病院小児科	E.coli O-159+カンピロバクター胃腸炎 1例 (1歳女)
	高知大学医学部付属病院小児科	RSウイルス肺炎 1例 (1歳女) アデノウイルス腸炎 1例 (4歳女)
高知市	高知医療センター小児科	RSウイルス感染症 12例 (0ヶ月男2人、0ヶ月女2人、3ヶ月女2人、6ヶ月女、7ヶ月女、10ヶ月男2人、10ヶ月女、2歳女) 病原性大腸菌 1例 (7ヶ月男)
	福井小児科・内科・循環器科	RSウイルス感染症 6例 (11ヶ月男、1歳女、2歳男、3歳男、3歳女2人) 溶連菌感染症 8例 手足口病 2例
	ふないキッズクリニック	感染性胃腸炎 (ノロウイルス迅速検査陽性) 1例 (1歳男)
	けら小児科・アレルギー科	アデノウイルス扁桃炎 8例 (2歳2人、3歳2人、4歳2人、5歳2人) 病原性大腸菌 O-1 腸炎 2例 (1歳、48歳)
	細木病院小児科	ノロウイルス 2例 (1歳男2人)
	三愛病院小児科	アデノウイルス 1例 (2歳女)
中央西	石黒小児科	アフタ性口内炎 1例 (53歳女) 水痘 1例 (4歳男：香美市、水痘ワクチン1回済み)
須崎	もりはた小児科	RSウイルス感染症 9例 感染性胃腸炎 (ノロ陽性) 3例
幡多	さたけ小児科	RSウイルス感染症 64例 (0歳8人、1歳26人、2歳15人、3歳8人、4歳4人、5歳1人、10歳以上2人) カンピロバクター腸炎 1例 (7歳男) マイコプラズマ 1例 (2歳女) 帯状疱疹 1例 (4歳男)

★全国情報

第36号 (9月4日～9月10日)

1類感染症：報告なし

2類感染症：結核362例

3類感染症：細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症178例、腸チフス1例

4類感染症：E型肝炎6例、A型肝炎4例、エキノコックス症1例、回帰熱1例、ジカウイルス感染症1例
チクングニア熱1例、つつが虫病1例、デング熱9例、日本紅斑熱7例、マラリア4例、
レジオネラ症45例、レプトスピラ症3例

5類感染症：アメーバ赤痢13例、ウイルス性肝炎1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症16例、
急性脳炎3例、クロイツフェルト・ヤコブ病4例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3例
後天性免疫不全症候群13例、ジアルジア症1例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例
侵襲性肺炎球菌感染症15例、水痘 (入院例に限る) 4例、梅毒84例
播種性クリプトコックス症1例、破傷風3例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症1例、
風しん2例

報告遅れ：コレラ2例、回帰熱1例、重症熱性血小板減少症候群1例、デング熱4例、日本紅斑熱7例、
マラリア1例、ライム病2例、レジオネラ症8例、レプトスピラ症2例、
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症13例、急性脳炎7例、
劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例、梅毒44例、風しん1例

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第38週 平成29年9月18日(月)～平成29年9月24日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第38週							計	前週	全国(37週)	高知県(38週未累計) H29/1/2～H29/9/24	全国(37週未累計) H29/1/2～H29/9/17
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	高知市					
インフルエンザ*	インフルエンザ								()	()	1,081 (0.22)	14,649 (305.19)	1,368,583 (276.93)	
小児科	咽頭結核熱		1	4	8			1	3	17 (0.57)	15 (0.50)	1,455 (0.46)	327 (10.90)	63,988 (20.27)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			1	23	2		1	2	29 (0.97)	27 (0.90)	4,847 (1.54)	1,976 (65.87)	262,236 (83.06)
	感染性胃腸炎		3	15	48	2		4	3	75 (2.50)	109 (3.63)	10,355 (3.29)	4,403 (146.77)	631,144 (199.92)
	水痘				5	1				6 (0.20)	5 (0.17)	622 (0.20)	445 (14.83)	40,299 (12.76)
	手足口病			4	9	3			4	20 (0.67)	36 (1.20)	12,198 (3.88)	3,073 (102.43)	288,682 (91.44)
	伝染性紅斑									()	()	201 (0.06)	109 (3.63)	9,305 (2.95)
	突発性発疹		1	3	8	1				13 (0.43)	6 (0.20)	1,409 (0.45)	405 (13.50)	53,871 (17.06)
	百日咳									()	()	30 (0.01)	21 (0.70)	1,134 (0.36)
	ヘルパンギーナ				6				4	10 (0.33)	10 (0.33)	3,048 (0.97)	496 (16.53)	72,674 (23.02)
	流行性耳下腺炎				1					1 (0.03)	1 (0.03)	1,227 (0.39)	176 (5.87)	63,290 (20.05)
基幹	RSウイルス感染症			9	83	11		9	90	202 (6.73)	186 (6.20)	10,500 (3.34)	1,029 (34.30)	83,328 (26.39)
	急性出血性結核炎									()	()	5 (0.01)	()	328 (0.47)
	流行性角結核炎									()	()	691 (1.00)	12 (4.00)	18,122 (26.11)
	細菌性髄膜炎									()	()	9 (0.02)	2 (0.25)	369 (0.77)
	無菌性髄膜炎									()	()	26 (0.05)	7 (0.88)	710 (1.49)
眼科	マイコプラズマ肺炎									()	2 (0.25)	151 (0.32)	73 (9.13)	5,604 (11.75)
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)				1					1 (0.13)	1 (0.13)	5 (0.01)	9 (1.13)	189 (0.40)
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)									()	()	5 (0.01)	86 (10.75)	4,860 (10.19)
	計(小児科定点当たり人数)		5 (2.50)	36 (5.14)	192 (17.37)	20 (6.67)	15 (7.50)	106 (21.20)	374 (12.43)		47,865	27,298 (720.52)	2,968,716	
前週(小児科定点当たり人数)		16 (8.00)	63 (9.00)	183 (16.35)	15 (4.99)	16 (8.00)	105 (21.00)		398 (13.16)					

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第38週							計	前週	全国(37週)	高知県(38週未累計) H29/1/2～H29/9/24	全国(37週未累計) H29/1/2～H29/9/17
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	高知市					
インフルエンザ*	インフルエンザ										0.22	305.19	276.93	
小児科	咽頭結核熱		0.50	0.57	0.73			0.50	0.60	0.57	0.50	0.46	10.90	20.27
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			0.14	2.09	0.67		0.50	0.40	0.97	0.90	1.54	65.87	83.06
	感染性胃腸炎		1.50	2.14	4.36	0.67		2.00	0.60	2.50	3.63	3.29	146.77	199.92
	水痘				0.45	0.33				0.20	0.17	0.20	14.83	12.76
	手足口病			0.57	0.82	1.00			0.80	0.67	1.20	3.88	102.43	91.44
	伝染性紅斑											0.06	3.63	2.95
	突発性発疹		0.50	0.43	0.73	0.33				0.43	0.20	0.45	13.50	17.06
	百日咳											0.01	0.70	0.36
	ヘルパンギーナ				0.55				0.80	0.33	0.33	0.97	16.53	23.02
	流行性耳下腺炎				0.09					0.03	0.03	0.39	5.87	20.05
基幹	RSウイルス感染症			1.29	7.55	3.67		4.50	18.00	6.73	6.20	3.34	34.30	26.39
	急性出血性結核炎										0.01		0.47	
	流行性角結核炎										1.00	4.00	26.11	
	細菌性髄膜炎										0.02	0.25	0.77	
	無菌性髄膜炎										0.05	0.88	1.49	
眼科	マイコプラズマ肺炎									0.25	0.32	9.13	11.75	
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)				0.20				0.13	0.13	0.01	1.13	0.40	
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)										0.01	10.75	10.19	
	計(小児科定点当たり人数)		2.50	5.14	17.37	6.67	7.50	21.20	12.43			720.52		
前週(小児科定点当たり人数)		8.00	9.00	16.35	4.99	8.00	21.00		13.16					

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2017年9月25日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。